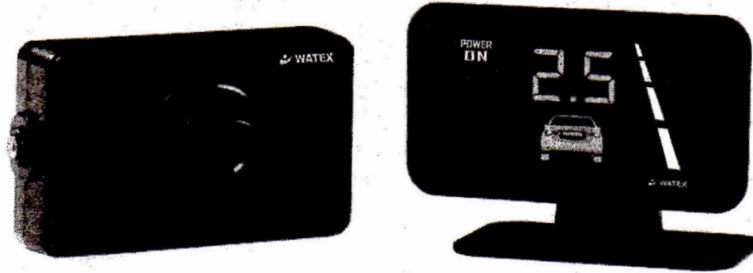


# 車間距離、標識認識機能も

## 衝突警報装置の新機種発売

ワーテックス

ドライブレコーダーや衝突警報装置等の開発・製造・販売を行うワーテックス(太田市強戸町162-13、安俊典社長)0276-5513738はこのほど、自動車に後付けできる衝突警報装置「XLAS-303」を開発、近く販売を始める。前方車間距離警報、低速時前方衝突警報などの機能を盛り込んだもので、初年度1万台の販売を目



衝突警報装置XLAS-303

指している。同社の衝突警報装置は、ディーラーや部品商社などの販売代理店を通して、トラックやバスの運送事業者を中心に販売、利用されている。XLAS-101の後継機となるXLAS-303は、既存の車線逸脱警報、前方衝突警報、前方車間距離検知に加え、前方車間距離警報、低速時前方衝突警報、歩行者衝突警報、標識認識の機能を追加した。前方車間距離警報は、走行速度に応じた適切な車間距離を支援する機能。車間距離が詰まると、モニター映像とアラーム音、音声ガイダンスで4段階で注意、警告を行う。低速時前方衝突警報は、渋滞時や交差点進入時の低速走行中、前方車両に衝突する可能性があると警告を行う。歩行者衝突警報は、カメラ解像度が向上したことで実現した機能で、道路を横断する歩行者と衝突する可能性があると警告。標識認識は、速度表示と進入禁止の標識を認識、違反した場合に警告を行う。歩行者衝突警報と標識認識は、XLAS-303の検知カメラが可視光を利用するタイプのため、昼間のみ利用となる。また、同社のデジタルタコグラフの通信機能と連動させることで、運転データをリアルタイムで事業者へ送信、活用す

ることが可能。価格は9万8000円(税別、取付工賃別)。相澤伸幸常務は「運送事業者からはドライブレコーダーなどのデータをビッグデータとして利用し、安全支援、事故防止に加え、運転手の教育・管理にも活用したいとの要望が生まれている。デジタルタコグラフと組み合わせることで、運送事業者の要望にこたえていきたい」と話している。(久間田貴志)